Theme

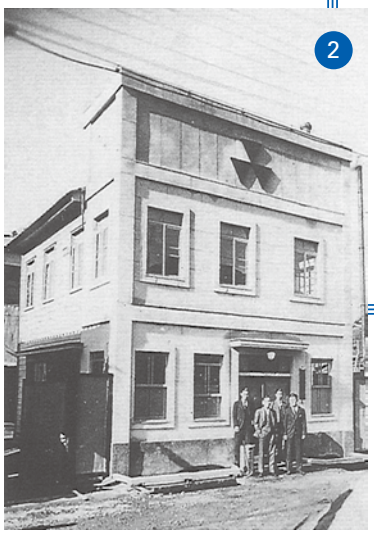
時代とともに移り行く本社の所在地

85年の歴史の中で、当社は本社社屋を変遷してきました。
その理由は戦火を逃れるためや社員数の増加、業務の効率化を図るためなど、
時代によって異なりますが、その都度、当社は着実に成長してきました。

1929

関東大震災、金融恐慌など日本経済が混乱する中、1月27日、納 三治が東京府北豊島郡高田南町3-784（現在の豊島区高田3-17）に「曙石綿工業所」を創業。この地で日本初となるウーブンブレーキライニングの製造を開始した。

1936



自動車製造事業法により、自動車生産の伸びが予測されたことから、1月25日、納は個人事務所から株式会社に組織変更し、「曙石綿工業株式会社」を設立、初代社長に就任。創業地住所を本社として登記した。規模は建物5棟、延べ面積449坪のものであった。

1944

2月に佐川直躬が社長に就任し、4月に新橋駅近くの港区新橋1-18に移転。5月に軍需会社の指定を受け、「曙兵器工業株式会社」と改称。さらに、防空法による建物の疎開命令が下り、7月に日本橋区本町1-7に移転を余儀なくされる。

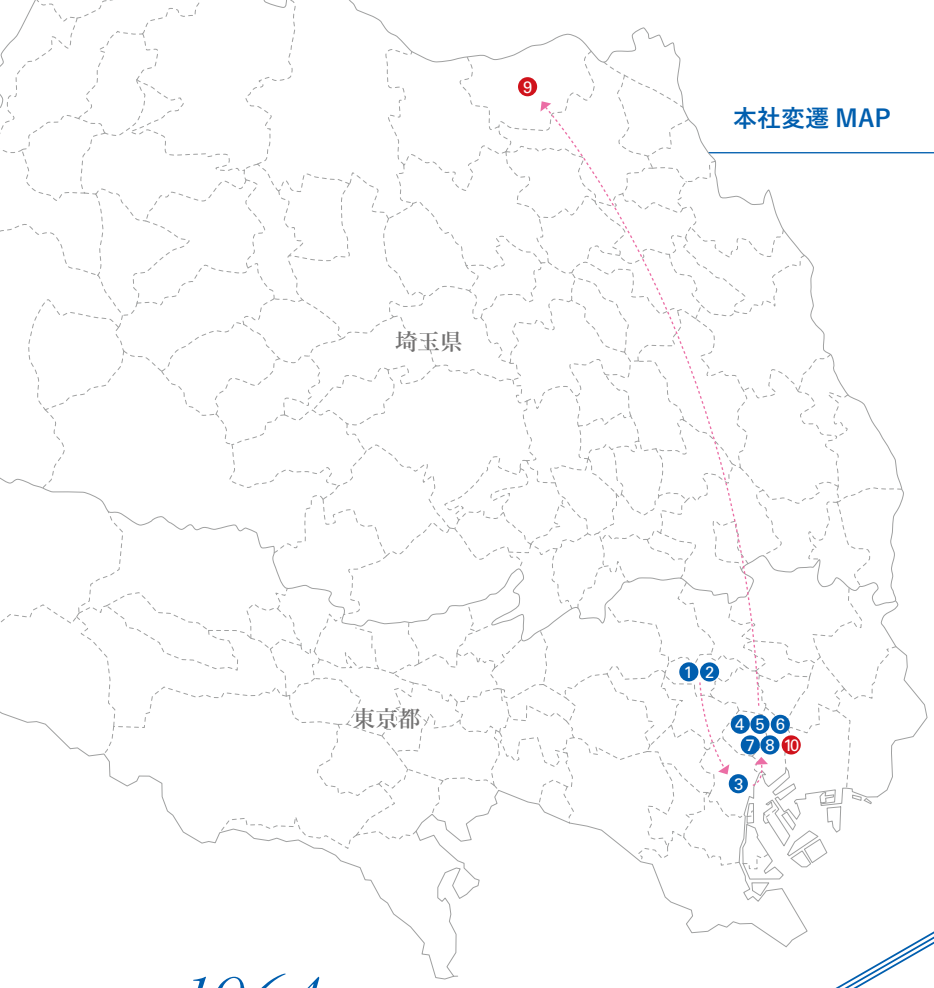
1950

1950年5月、日本橋本町4-8に建設した新社屋に移転した。6月に創業20周年の祝典を開催。本来1949年が当社の創業20周年であったが、戦後の混乱が長く続き、ようやく落ち着きを見せた翌年に開催することになった。

1961

1960年、当社にとって総合ブレーキメーカーへの第一歩となるベンディックス社との技術提携が決まる。それに伴い事業が拡大し、本社の従業員も増加。社屋が手狭になったことから、翌年10月に中央区日本橋茅場町3-4に移転することになった。

本社変遷 MAP



1964

前年に 3 代目の佐川社長が逝去し、信元安貞社長による新体制となった。4 月に中央区日本橋本町 1-2-3 に移転。新社屋は昭和通りの江戸橋近く、クリーム色の 4 階建てのビルで、3 方がガラス張りの明るい建物であった。

1971

1 月から中央区日本橋小網町 1-2-3 に新社屋の建設がスタートした。7 月に社員は渋谷区代々木 2-4 の仮事務所に移転。そして、12 月に地上 8 階地下 2 階建て、総坪数 1,400 坪の曙ビルが完成した。当社は 3 ～ 5 階を使用。

2001

急激かつグローバルな変化に対応するための企業変革を実現する場として、開発の主要拠点があった埼玉県羽生地区を「Ai-City」とし、新社屋 ACW（Akebono Crystal Wing）が 12 月に竣工。現在も変革のシンボルとして機能している。

2008

国内外の拠点を情報網で結び、コミュニケーションを通して知恵を創造するグローバル本社として、新本店「akebono 日本橋ビル」が 7 月に完成。太陽光発電や免震構造の採用など、最新設備を兼ね備えている。